



タウンミーティング

小泉内閣の国民対話



[トップへ戻る](#)

タウンミーティング イン 奈良 [議事録]

日時 平成13年7月7日(土)午後1時から午後3時
場所 奈良県社会福祉総合センター 橿原市大久保町320-11

出席閣僚等 中谷 元(防衛庁長官)
竹中平蔵(経済財政政策担当大臣)
松田岩夫(経済産業副大臣)
泉 信也(国土交通副大臣)

コーディネーター 音田昌子(読売新聞大阪本社編集委員)

ミーティング参加者 朝廣佳子さん、上本絵美さん、
尾川欣司さん、山藤エリザベスさん、
藤田清司さん、丸 直さん

進行 お待たせ致しました。ただ今より「タウンミーティングイン奈良」を開催致します。まず、本日も参加のみなさんにご入場いただきます。

本日も参加いただいたみなさんを紹介致します。最初に閣僚のみなさんからご紹介します。中谷元 防衛庁長官です。竹中平蔵 経済財政政策担当大臣です。松田岩男 経済産業副大臣です。泉信也 国土交通副大臣です。次に奈良県民の代表としてご発言いただくみなさんです。奈良市の朝廣佳子さんです。

朝廣 奈良市から参りました朝廣です。よろしくお願い致します。

進行 奈良市の上本絵美さんです。

上本 奈良市から参りました上本絵美です。よろしくお願い致します。

進行 大和郡山市の尾川欣司さんです。

尾川 大和郡山市でレストランを経営しております尾川でございます。よろしくお願い致します。

進行 奈良市の山藤エリザベスさんです。

山藤 山藤でございます。よろしくお願い致します。

進行 五條市の藤田清司さんです。

藤田 藤田です。よろしくお願い致します。

進行 橿原市の丸 直さんです。

丸 吉野から参りました丸でございます。よろしく。

進行 そしてコーディネーターを務めていただくのは、読売新聞大阪本社編集委員の音田昌子さんです。

音田 本日コーディネーターを務めさせていただき音田です。職場は大阪ですが、奈良に住んで30年になります。今日はよろしくお祈りします。

進行 このタウンミーティングの基本的なコンセプトは、閣僚などと国民の皆様との対話を実現することです。参加者のみなさんも忌憚なくご意見を述べていただきたいと思います。また、ご出席いただいた閣僚のみなさんも、それぞれ所管のお立場を越え、政治家としての意見を含め、お話をいただきたいと思います。

それではこのあとの進行はコーディネーターの音田さんにお祈り致します。

音田 それではただ今から「タウンミーティングイン奈良」を始めたいと思います。今日は遠方からお忙しい中を4人の閣僚の皆様においでいただき、本当にありがとうございます。

先ほど会場の皆様に対して、今回の小泉内閣の構造改革でいったいどういうところに一番関心があるか、何から早く手をつけてほしいかについて、アナライザーによるアンケートを実施させていただきました。その結果が手元に来ていますが、これについてはあとで会場からのご意見、ご質問を受ける時間をゆっくりとりたいと思います。

まずは、ステージ上の県民代表として参加していただいた6人の方に発言いただきたいと思います。その前に、奈良県はいったいどういうところなのか、今日お越しの閣僚の皆様にも予備知識として知っていただきたいと思います。

先ほど控え室で、奈良には何回ほどこられたことがあるか伺いましたら、「修学旅行で来たことがある」

「新婚旅行で来たことがある」というお答えをいただきました。また、「薬師寺に知人がいて何度も来ている」という大臣の方もいらしたのですが、奈良というと、東京から見ると「非常に遠い所」というイメージがあると思います。今日飛行機で来られた大臣の方も、伊丹から1時間半くらいかけてたどり着かれたと思います。

「古の都・奈良」というイメージが強いですが、現実の奈良はどうかというと、地図で見てもおわかりのとおり、南北に長い県です。橿原の辺りは中和地区といって真ん中辺ですが、県の北部、面積にして2割くらいのところに人口の9割が集中しているという特徴があります。この橿原からずっと南に行きますと、農業、林業が主産業になってきます。奈良市内から吉野の下北山村に行くには車では3時間かかり、一つの県の中であっても東京まで新幹線で行ってしまうような実状です。

今日は奈良県について話し合う場ではありませんが、そういう所に住む県民の方からのご意見であることを、まずご承知おきいただきたいと思います。

それではまずステージの方からご発言をいただきます。トップバッターとして尾川さん、ご発言いただけますか。

尾川 トップバッターで少し戸惑っていますが、今日はよろしくお祈り致します。4人の大臣の方、副大臣の方、奈良まで起こしいただき、まずお礼申し上げます。ありがとうございます。

今、音田さんからもお話がありましたが、先ほど控え室で奈良に何度くらいおいでになったかが話題になっていました。私も実はそれをお聞きしようと思っていました。「修学旅行や新婚旅行で来た」とお聞きしましたが、本当にもっと奈良へ来ていただきたいというのが実状です。東京の方は「奈良から日帰りですか」とよくおっしゃいます。今は奈良から東京までのアクセスはずいぶん早くなりましたが、奈良県にいらした方はどうか。奈良から吉野、十津川辺りまでが本当に時間がかかります。

また、大阪 - 奈良間はずいぶん時間が短縮されましたが、京都へは大変時間がかかるので奈良の人は車で行かないでしょう。京奈自動車道路も工事されていますが、道路特定財源の見直しによって道路が作られなくなることはやめていただきたいと思います。「切り捨て」とはおっしゃっていませんが、奈良にとってはまだまだ主幹道路の整備が必要なのです。私たちのように奈良で観光に携わっている者は、少しでも外部の方がスムーズに奈良にお入りいただくこと、奈良県は奈良市だけではなくずっと十津川、吉野まで行っていたことを願っています。その意味で、道路関係を重視していただきたいと思います。

今年は橿原の近くに「万葉ミュージアム」もできます。また、2010年には「平城遷都1300年」という、奈良にとっての大きなイベントも待ち構えています。奈良にはまだまだ道路が必要なのです。道路を作るための特定財源にはメリット、デメリットがあることはよくわかりますが、奈良にはまだ道路が必要だということをお願いしたいと思います。

音田 ありがとうございます。引き続きまして丸さん、お祈りします。

丸 私は吉野の山奥に住んでいる関係で、環境問題と、農林水産分野における構造改革についてお聞きしたいと思います。

構造改革では都市の再生が謳われていますが、私は森林の再生、国産林の再生、山村の再生についてお祈り致します。今日は中谷大臣が高知県出身でございますし、竹中大臣は和歌山県出身です。そして松田副大臣は岐阜県、泉副大臣は福岡県のご出身で、いずれも林業、木材の最も生産の多い県ですから理解いただけ

ると期待しているところです。

ご案内のとおり、わが国の森林、特に人工林は1,000万haで、これは国土の4分の1を占めています。奈良県の人工林は16万8,000haで、これは県土の半分近い46%に相当します。戦後、営々と植林してきた杉、ヒノキの山にも現在は放置されている森林が多く見られるようになりました。木材需要の80%が外材で、世界の国のどこからでも輸入されており、国産材のシェアは20%に落ち込んでいます。また建築材料の構造的変化により木材価格は大きく下落し、国産材の需要がますます減少しており、いまや「危急存亡の危機」となっています。林業、木材の生産活動は低下し、林業労働者が減少して間伐など保育作業ができず、林地に太陽の光が当たらず、下草が生えなくなってしまうました。大変保水機能が低下し、災害にもっとも弱い森林になってしまっています。

6月9日付の『読売新聞』で「荒廃する林業を救えるか」というテーマが大きく取り上げられていました。これはいずれの県も同じで、生命、財産を脅かし、安全な水の供給に支障が生じ、国民生活に多大な影響を及ぼします。いったん失った森林機能の回復には、多くの歳月と費用が必要です。

重点産業として環境問題、とりわけ森林の重要性を認識していただいて、その費用と管理の負担のあり方について再構築すべきではないかと思っています。以上です。

音田 ありがとうございます。最初に観光立県としての要望が尾川さんから出され、丸さんからは林産業についての要望が出されました。引き続いて、朝廣さん、お願いします。

朝廣 私は地域情報誌の編集の傍ら、青年会議所で11年間、まちづくりの運動をさせていただいたので、その観点から意見を述べたいと思います。

今の日本を再生するには国や行政だけに任せるのではなく、私たち国民が協力し合うことが大切です。そうしなければこの危機は乗り切れないと思っています。そのために重要なのは、この国の形としてふさわしい方法を、その理由も含めて具体的に示していただいて、国や地方、国民がそれぞれの責任を自覚して役割を果たしていくことが必要になると考えています。

地方分権を進めておられますが、地方に自立を促すときには主財源の確保が前提になります。私たち納税者が自分たちの税金がどこにどういった形で使われているかを、具体的に知ることができるシステムを作っていただくことが望ましい。それによって政治参加も促すことができるようになると思います。そのための情報公開や説明責任を徹底的にさせていただきたい。そうすることで、行政効率の改善を促す市町村合併も、私たちが自分自身の問題として捉えることができると考えています。

奈良県でも6つの広域市町村圏で合併問題が議論されていますが、国として単に合併や自立を促すのではなく、その合併の必要性や具体的なモデル市町村事例などを示していただければありがたいです。以上です。

音田 会場から拍手をいただきまして、ありがとうございます。これまで三人の発言をいただき、この辺りで大臣の方からお答えをいただきたいと思っています。今の三人の発言は、それぞれ奈良の事情に基づくものでした。尾川さんからは道路特定財源の見直しについての疑問が投げかけられ、丸さんからはこれからの農林業がどうあるべきかについての問題提起がなされました。最後の朝廣さんは地方分権の進め方について発言されました。いずれも小泉内閣の構造改革の大きな柱となっているものではないかと思っています。全体的なことについてまず竹中大臣からお答えいただき、そのあと公共事業の進め方や資本整備については泉副大臣にお答えいただければと思います。竹中大臣、よろしくをお願いします。

竹中 竹中平蔵です。隣の和歌山県の生まれですが、奈良はやはり遠くて子どもの頃から何度かお伺いしましたが、今日またお伺いできて本当にうれしく思っています。

全体的なことにコメントせよとのことでしたので、お話し致します。今、みなさんから大変重要な問題を挙げてもらいましたが、ちょっと考えていただきたいことがあるのです。ここに経済財政政策担当大臣とありますが、こんな大臣は去年はなかったことをご存知ですか。この大臣は今年1月に中央省庁再編によりできたポストです。

この間、小泉内閣は構造改革の青写真を示しました。新聞などでは「骨太の方針」、「基本方針」といわれていますが、あれを出したのは経済財政諮問会議で、これも今年1月にできたばかりで、重要なのは、日本の仕組みそのものが変わり始めているということです。それは、仕組みを根本的に変えなければならない、はっきりとした理由があるからです。

先ほど尾川さんから道路の必要性が強調されました。私は昨日までシンガポールに行っていました。成田から都心に着くまで2時間くらいかかったのです。東京の国際空港から都心まで、混んでいると2時間くらいかかるわけです。「これは道が足りないんじゃないか」と思いました。この間も青森県のタウンミーティングに行くと、そこでも「道が足りないんじゃないか」とおっしゃるのです。奈良でもそうだと思います。今までもそのようにしているいろいろな所が予算を要求し、陳情して、それで積み上げて、結果的に道路が配分されていました。それなりに国土交通省も大蔵省も一生懸命配分してきたのですが、気がついてみると他の人から見れば「この道、要らなかったんじゃないか」というのも、やはりあるのです。それは、私たちの国の仕組みそのものに、どこか欠けているものがあつたからだと思います。

先ほども触れた私のこのポストは、例えば大蔵省が個別に予算を積み上げるのではなくて、経済全体、日本国全体としてどのくらいの予算をつけるべきか、どのようにメリハリをつけるべきか、どのようなコストと便益を考えるべきかというルールをしっかりと作り、全体の枠組みを作りましょうと、そういうことを担当する大臣として、今年1月にできたポストです。申し上げたいのは、小泉総理は大変ラッキーな方だと思います。こういう新しい仕組みができて、それを使って総理大臣のリーダーシップを発揮して、新しい政策をやる、歴史上最初の総理大臣なのです。1月にこの制度ができ、4月に小泉内閣ができたのですから。今、その制度を利用して小泉総理は、日本の国の仕組みを根本的に変えようではないか、それを構造改革として問題提起しているわけです。

みなさんのお手元に「さあ変えよう、日本」、「改革なくして成長なし」同じような資料が二つあると思いますが、そのうちの一つをご覧ください。

先ほど朝廣さんが「この国の形の示すべきだ。なぜそれが必要か、どうするかというビジョンが必要だ」といわれました。全くそのとおりだと思います。小泉総理は「それをやれ」と私たちに命じ、内閣発足後2カ月で経済財政諮問会議が取りまとめました。そのエッセンスがこの中に書かれています。

「林業は存亡の危機に瀕している」と丸さんが話されましたが、世界中が今、「自分たちの国が存亡の危機に瀕している」と感じていると思います。ものすごい変わりようで、技術はどんどん開発していくし、グローバル化で世界はどんどん広がって行く、そういう危機感の中で一生懸命に国を建て直そうとしているわけです。そのためには何をすべきか。

話せば長くなりますが、まず目の前にある不良債権を償却し、さらに前に向けて七つの改革を進めていくこととしました。その改革の中に先ほど指摘のあった道路の話、地方財源の仕組みがワンパッケージで入っているわけです。この中味についてはみなさんからご質問があると思いますので、あとでご説明させていただきますが、日本がそのように変わり始め、政府もようやくそういう仕組みを持ちはじめて、実行しようという決意をもった総理大臣が誕生したわけです。その中でさらに対話を進めるために、こういうタウンミーティングを持たせていただいていると、その位置付けだけ最初に申し上げたいと思います。

音田 ありがとうございます。国土交通副大臣の泉副大臣、お願いします。

泉 尾川さんから観光に絡めて道路整備のお話をいただきました。奈良の道路が遅れていることは数字でも表されています。幅5.5mの道路がどの程度整備されているかを見てみると、全国的には90%なのですが、奈良の場合は67%です。さらに整備率という指標を見ても、これは本来の5.5mの道路が渋滞せずに走ることができる状態かどうかを示すものです。全国は55%であるのに奈良は40%で、指摘のように大変道路の整備は遅れています。

国土交通省としては、今、道路特定財源の話等、省内でいろいろな議論をさせていただいています。見直しが必要であるということで取り組んでいますが、お示した奈良県のように大変遅れているところもあるので、これをきちんと整備することは、国の役割である、また地方の役割であると思っています。道路を整備することで観光客をさらに奈良県にお迎えすることは、奈良の歴史から見ても大変素晴らしいことだと思いますし、全国あるいは海外のお客様も、そうした奈良にきっと期待を寄せておられるのではないかと思います。

私どもも、観光の面で、先日国会で祝日三連休、つまり月曜日を指定してお休みにしようという法律を設けて、より多くの方々が生活を楽しみ、自分の生き方を楽しめるようにしたいと思っています。今回、敬老の日を月曜日のお休みにしますが、それによって両親が、お子様方、お孫様方を見ていただける機会を増やし、そして旅行の機会をできるだけ多く差し上げたいと考えて、国土交通省は取り組んでいます。特定財源の問題、その他観光の問題について時間があればお話ししたいと思います。

松田 最初に竹中大臣がいわれた小泉改革の基本的な考え方について、今、朝廣さんがいわれたことに関連して申し上げます。

今までは国や自治体、特に国がいろいろなことを少しやりすぎたのではないかと。民間でできることはできるだけ民間にやっていただく、また公共部門でやってほしいことについても国と地方をみた場合に、地方自治体の方がはるかに国民の近くにあり、みなさんの気持ちを汲み取ることができるのはむしろ地方ではないか、だから地方でできることは地方に委ねようという、この二つが大きな考え方の基本となっていることをまず申し上げておきたいと思います。

これから作る日本の国の成り立ち、特に政府がやらなければならないことは何かについて、この際、徹底的に考え直してみるわけです。例えば丸さんがいわれた「森林をどう考えるか」という問題でいえば、「民は民だから」と「森林を民に任せきりでいいのか」を考える一つのいい例だと思うのです。森林の持つ機能は、単に林業経営者に経済上の利便を与えるばかりではなく、森林そのものが人間社会に対して持ついろいろな意味があるのです。それから考えて、「今のままでいいのか」という問題提起は、私の出身が岐阜の森林県だからではなくて、一政治家として次の世代へ安心してパトタッチできるものにする、また我々の環境を守り都市と農村が豊かに共生しあって行く姿を作り上げる上で、「森林」はいい問題提起であると、我々もしっかり受け止めています。

音田 次に残りの3人の方に発言いただきたいと思います。藤田さん、お願いします。

藤田 私は奈良県の私立学校の教員をしています。教育改革について閣僚の方々に発言していただきたいと思います。

先ほど本日ここに、ご参集された一般の皆様方のアンケート調査を見ました。その中でダントツにパーセントが高かったのは不良債権処理の30%です。2番、3番目に教育改革に対する関心が非常に高いので、県民の皆様方もこれについていろいろ考え悩んでおられると思います。

特に私の方から発言したいことは、「理想の教育とはいったい何か」ということです。教育国民会議にも提言が出されましたが、そこで「真・善・美・聖・健・富」の六つが提案されました。「真」とは学問を意味し、「善」とは道徳を意味します。「美」は芸術を、「聖」は宗教を、「健」は体育を、「富」は家庭を意味し、この六つの調和が理想の教育だといわれています。私はずっと学校の教員をしています。今、いろいろな問題がたくさん起こっています。昨年来、17歳の凶悪犯罪もありました。不登校児が全国で13万人。校内暴力が、表ざたになっているだけで3万件等起こっており、非常に教育の問題が取りざたされています。特に先ほどの六つのうち最初の、学問です。学力低下に関して、文部省は「教育内容を30%削減する」といっていますが、我々教員としては、それはぜひともやめていただきたいのです。もっときめ細かく、丁寧な内容で生徒たちに教育していきたいと思っています。そして、道徳。これについてもさまざまな意見があると思いますが、小中高では人間づくりの根幹として、道徳教育をぜひとも学校の方で導入する動きに移行してほしいと思います。家庭教育は、できれば親が子どもに対し、各年齢に沿ってしっかりと家庭教育ができるようなマニュアルを国で作っていただいて、教師と学校と生徒と親、すべてが一体となった教育を今後進めていきたいと思っています。これについての意見も閣僚の先生方、よろしくお願い致します。

音田 ありがとうございます。お隣の山藤さん、お願いします。

山藤 公務員制度の改革がいられています。改めるべき点がたくさんあることはわかります。しかし地方を含めて日本の優秀な公務員が、十分能力を発揮できるように改革していただきたいのです。「政治主導にする」といらわれていますが、今までの政治に方向性が足りなかった面を、公務員が補ったという政治家の限界の現実も、よく認識する必要があります。

日本の公務員に全く問題がないとはいいいませんが、全体としては世界に誇れる人材が集まっていると思います。その公務員の優秀さを政治家の意地でダメにしてほしくないのです。

ここ奈良は、日本の官僚制度発祥の地です。中国に習ったとはいえ、日本独自の工夫が組み込まれています。40年程前日本に留学して、公務員を目指している学生たちに新鮮な感動を覚えました。国を支えようとする気概を持つ人が集まった職場でもあったのです。グローバル化、政治主導というお題目で魅力のないものにしてしまっただけでは、取り返しがつかないと思いますが、いかがでしょうか。

音田 ありがとうございます。続いて今日の参加者で一番若い上本さん、お願いします。

上本 よろしく申し上げます。先ほど藤田さんが触れられた教育に関して、私も若者の意見としてお話ししたいと思っています。

学校教育といえば、国語とか算数を教えることが主ですが、その他にもいろいろな活動を学校教育に取り入れてはどうかと思います。私も教育実習に行きましたが、そのときにこれを思いました。一つとして、ボランティア活動が挙げられます。ボランティアは好きではない言葉の一つです。すごく特別なイメージ、えらい子がするもので自分には興味がないと、そんな遠いイメージをもつ気がするからです。

私は、小学校2年生のときからガールスカウトに入っていて、物心ついた頃からゴミが落ちていたら拾うことは当たり前で育ってきました。「みんなも私のようにして」とか、そんなことはいいいませんが、こういうことを通じていろいろなことが学べるのではないかと思います。ガールスカウトでは県の青少年課の行事にも参加して、学校でも親からも学べないことを、いろいろな大人の方や同い年の子から学ぶことができました。それはすごく大切なことだと思います。命の大切さや友達のありがたみ、自然を大切にしなければいけないということ、それは当たり前だと思うのですが、学校ではなくて、いろいろなボランティア活動を通じて学べるのだと思います。そのことに国が積極的に取り組んでいただければと思います。

テレビで「こういう事件がありました」「ああいう事件がありました」「若者はどうだ、こうだ」といわれていますが、そのあと、それをなくすためにどうすればいいか議論されていない。結果報告だけでなく、いろいろと考えてほしいと思います。以上です。

音田 ありがとうございます。今、藤田さん、上本さんからは教育に対する注文、山藤さんからは公務員制度改革への意見が出されました。どちらも21世紀の日本を支える人づくりに関わってくる問題だと思います。先ほどご発言いただけなかった中谷長官、お答え願えますか。

中谷 中谷元でございます。奈良にお邪魔するのは4度目になりますが1回目は修学旅行、2回目は大学生

時にフラッと自転車旅行をして、橿原周辺の古墳を回りました。3回目は、2回目に来たときの印象がよかったので新婚旅行でした。家内からは「海外に行きたかったのに、どうして奈良なの」といわれましたが、ちょうど「シルクロード博」をやっていて、奈良に来たら海外旅行ができるじゃないかということで来ました。インド、中国、韓国を含めいろいろな国の文化が、この奈良に集約して形成されていることを改めて知ることができ、奈良のもつ国際性と文化の重みを痛感しました。ぜひ将来、奈良を新婚旅行のメッカにするよう、県民のみなさんもおもてなしの心で、観光の方にも力を入れていただきたいと思っています。

お尋ねの点で、まず林業についてです。私は高知県の出身です。高知は太平洋の海の県と見られがちですが、実は日本一の森林県で、林野面積が84%を占めています。県内の林業も大変苦しい環境の中で経営を続けています。この理由は昭和40年ごろの自由化により、外材との価格競争についていけなくなったことにあります。いくら努力しても追いつけない状況で、昨年「森林基本法」を作って、今後は三つの機能に山を分けていくことになりました。

一つは国土機能を維持していくために、水や防災の面で行政がきちんと管理していくこと、第2は今の森林、林業等を持続的な見地で続けていくことです。これは針葉樹だけでなく広葉樹も入れた超ライフサイクル系の林業経営によって、一度にすべて切るのではなく、計画的に切っていくということです。三つ目は森林レクリエーションを活かし、町の住民が交流的に山に来てもらえるようにすることです。以上三つの切り口で、国としても林業を保護し進めていこうと考えています。林業に携わっている方が安定した経営ができるように、機械化、プレカット、乾燥材といった産業面での支援を引き続き行い、また間伐も進んでやっていき、今後は機能別に整備していこうということです。

もう1点。公務員制度について非常にいい視点でご指摘いただきました。政治家が本当に公務員に的確に指示しているかといえば、そうではないのです。族議員みたいな人がいて、何か業界や業者のための行政であった点は、大いに反省しなければなりません。また、大臣が1年か2年でくるくる変わってしまうことも問題です。トップが替われば考え方も変わります。これでは公務員の方もいったいどの方向に行っているかわかりません。しかし、小泉内閣の間は閣僚を変えないといっています。小泉改革のために今までのやり方を改め、「おそれず、ひるまず、とらわれず」の精神で、大臣も先頭に立ってやってくれという使命を帯びています。従来行政のやり方ではなくて国民に目を向け、勇気をもって行政自身が変わっていくように、そして各閣僚が先頭に立って的確な指示を出すように、といわれていますので、しっかりとした国の目標に向かって、行政全体が国民のために動けるよう舵取りをしていきたいと思っています。

教育については、今は本当に大事な時期です。私は「何のために学ぶのか」を考えたとき、3つの大事な要素があると思います。第1に本当のことを見つけるために学び、それを見つけた喜びを与えることです。第2に物事を成し遂げる喜び、人にはそれぞれ能力がありますが、それを伸ばして実現する喜びを与えることです。第3にみんなで協力する喜び、みんなで力をあわせてやることに喜びを持って、それぞれの課題に取り組むことです。そのような雰囲気教育に打ち込めば、いい方向に向かうのではないかと、私の体験からそのように思います。

音田 教育改革についてもうお一人、松田副大臣、お願いできますか。

松田 教育の問題は今日お越しのみなさん、すべての方が関心をお持ちになり、またそれぞれご意見があることと思います。今ほど教育について、国民みんなで考えなければならぬときはないと政府も思っていて、各界の方々の意見をお聞きしようと教育改革国民会議では、いろいろな意見をいただきました。そういう中で、3点ほど藤田さんからご指摘のあった点について触れさせていただきます。

一つは、教科の内容を削減しているが、本当にこれで基礎的な学力がつくのか、という点です。全体の小学校、中学校の時間をどんな教育にあてていくかは本当に大事な問題です。基礎的な知識、基礎的な経験は、できるだけ子ども時代に授けておきたいと思うのは当然です。しかしまた、そういう中で今日の教育に問われていることは、記憶はよくできる、あるいは知識はあるけれど自分で考え、判断し、行動して責任をとるといって、一言でいえば自立した、個人的な生き方、いい意味の個人主義とでもいいたいでしょうか、そういったものを私たちはまだ十分に、大人もそうかもしれないですが、子どもにも教えきっていないのではないかと、これが今回の教育改革の大きな問題の一つだと思っています。学科をどう編成するかという議論もありますが、それを達成することも含めて、総合的な学習の時間を作らせていただくことになったわけです。どんな学科を作るにしても、それをどのように実践していくかについても、知恵を出していかなければならないと思います。

二つ目に、道徳、徳育についてですが、これもまた大きな関心を集めています。アメリカやヨーロッパで暮らした経験からすると、宗教が人間の生き方を教える上で、非常に大きな役割を果たしていると思えます。ところが日本の場合、もちろん信仰深い国民ではあるのですが、宗教が人間の倫理や道徳に基本的な価値観を与えているかということ、非常に日本の社会は弱いと思えるのです。その意味ではやはり、人間として生きていく上で必要な基本的な価値観、道徳観をしっかりと子ども時代から、社会全体で教えていくことが必要なのではないかと思っています。

日本の社会で宗教がその役割をしっかりと果たしていればいいのですが、そうでないならば、教育がこういった面で責任をもつべきではないか。これが今、道徳教育で議論になっていることですが、それを実践し

ていく上で、先ほど指摘されたボランティアに関連しますが、奉仕やボランティアなどの体験活動を、学校教育の中にしっかりと位置付けていってはどうか、というご提言もいただいています。最終的に決めるまで、もっと多くの意見をみなさんからいただくことになってはいますが、私はこの意見には賛成の立場で考えているひとりです。

また、教育は全人的なものです。学校教育も大事ですが、家庭教育あるいは地域社会全体としての、いわゆる教育力が日本の社会で落ちてきているのではないかともいわれています。「官」がすべてそれをやるのではなく、「民」でできることはみんなの力でやるべきです。最近はNPOなどの民間の活動についてもいわれますが、教育問題であればあるほど地域教育、家庭教育の見直しが必要だと思います。そのためには先ほどの「何かいい参考になる資料を作られてはどうか」というご意見に、私は大賛成です。

音田 ありがとうございます。教育改革についてどなたか発言されたい方、おられますか。お願いします。

竹中 私は2カ月前まで大学で教えていましたのでそれとの関連で、まだ出ていないポイントについて、いくつか問題提起させていただきたいと思います。

私が子どもの頃、ごく自然に親から教えられた言葉に「稼ぎと務め」がありました。人間が社会で生きていくには「稼ぎと務め」が一人前にできなければならないということです。「稼ぎ」とは、独立して自立して、経済人として経済的に所得を稼ぐ能力を自分でつけなさいということです。そのために教育は、手段として必要な部分があります。同時に「務め」とは、町内会の集まりにはちゃんと出る、友達とは大事にして付き合うといった社会参加です。

考えてみると、私たちが受けた教育と今の子どもたちが受けている教育を比べると、ある意味大変な面があると思います。これは、人類の知識は増えつづけますから当然です。つまり勉強しなければならないことが、毎日増え続けているわけです。私たちが子どもの時、「そんなに真剣に英語を勉強しなくてもいい」と心のどこかで思っていたのですが、今の子どもたちは「英語が使えるようにならないと、今後、社会の中で生きていけるのか」と、一種のプレッシャーを感じています。パソコンを使うかどうかについても、私たちが子どもの頃にはなかったことをしなければならないわけです。

ところが人間のキャパシティは限られています。そこで何が起こるかという、私たちのときには自然に身についていたことがありました。例えば野原で虫を採って虫を見ながら生命を感じるとか、友達との対話の中で何となく社会を感じるといったことです。しかし今の子ども達は別のことをやらなければならないから、かつて私たちが自然に身に付けていたことを、あえて教育のカリキュラムに入れて、意識的に教えなければならない必要が出てくるのです。そのためカリキュラムの組換えは社会的な問題意識を持って、考えなければならない問題になっているのです。先ほどから出ているボランティアの話も、まさにそういう状況から出ていると思います。

しかしもう一つ、同時に考えなければならないのは、私たちは経済発展の中で「稼ぎと務め」の中の「務め」をすごく軽んじてきた。エコノミックアニマルといわれるように「稼ぎ」にだけ血道を上げてきた。ところが、気がついてみるとどうでしょう。今、日本人は「稼ぎ」が悪くなっています。国際的な競争の中で日本が競争力を発揮できなくなりつつあり、経済が発展しなくなっているのです。これまで「稼ぎと務め」の中の「務め」を忘れていたけれど「稼ぎ」の方も本当にしっかりしなければならないことになります。そのためには、日本人の所得は世界一高いから、世界のどこにも負けない高い教育水準がこの社会で実現していなければならないわけです。しかしどうでしょう。これは高等教育については典型的です。

私は10年前ハーバード大学で教えていました。そこで私が教えていた基準を日本の一流大学といわれるところに適用してみると、東京大学であれ京都大学であれ慶応大学であれ早稲田大学であれ、私の実感からすると、学生の4分の3は間違いなく落第します。日本の大学はその程度です。残念ですが、今はその程度なのです。そうすると、教育そのものに対して何が必要かという、ものすごく社会的にお金をかけることであると思います。私は慶応大学で200人のクラスを教えていました。アメリカのいい大学では30人以上には絶対しません。その結果、授業料は当然高いです。日本は教育費が高いといわれますが、日本の私立大学、文系だと100万円くらいです。アメリカだと300万です。お金を払っていないのです。国の中に占める教育費のウエイトも低い。

さっき道路の話をしました。道がもっとほしい。もっと教育にも、芸術にもお金をかけなければならない。それが今の日本です。そうした場合、どうしたらいいですか。ムダなものを削らなければいけない。同時にもっと所得を増して、必要なものにお金を使えるように経済を活性化しなければならない。そういったことをパッケージとして、全体として考えようというのが、この改革の主旨であることを申し上げたい。

音田 ありがとうございます。一通り、ステージのみなさんに発言していただいたので、それでは会場みなさんからご意見なり質問を受けたいと思います。

先ほど、押しいただいたアナライザーによりますと、最も関心の高いのが不良債権処理で、30%。それで経済財政の構造改革に関する質問を最初に受けたいと思います。その後で、行政の構造改革で、特殊法人の見直しとか、地方分権の推進。三つめで社会の構造改革として教育改革など。一応こういうグループ分けをして、質問を受けたいと思います。できるだけ多くの人に発言していただくために、ひとり1分を見当に発

言してください。

進行 短く発言していただくために、1分、1分半の段階で合図の音を出させていただきます。それでは発言を希望の方は手を上げていただけますか。見えにくいので、立っていただけるとありがたいのですが。

音田 一番早かったのは、そちらの若い方ではなかったかと。

進行 グレーのTシャツの方ですね。ではマイクをお願いします。まず、お住まいとお名前をお願いします。

会場発言者 橿原市のウエダと申します。僕は竹中大臣のファンです。大臣になられた時、すごく興奮して、夜、眠れなかったことを覚えています。

この前、ホームページを見ていたら、大臣を批判する記事が載っていたので、大臣はどう応えるのかと思いき、質問させてもらいます。「規制を撤廃すればITが普及して景気がよくなり、株価が上がるといわれるが、それならば竹中氏に問いたい。市場の論理を貫徹したアメリカで、なぜ株価が暴落したのか。ハードランディングで不良債権を一掃したはずのアメリカで、なぜ不良債権が急増したのか。規制を全面的に撤廃したアメリカで、なぜIT関連株が10分の1に大暴落したのか。竹中氏が理想としたアメリカで、ナスダック指数が3分の1に大暴落し、景気が後退局面に入り、不良債権も発生した。竹中氏は亀井氏を批判する前に、竹中氏が賞讃するアメリカで、なぜ竹中理論が破綻したのかを説明する責任がある」という記事がありました。これに対して大臣はどのようにお答えになりますか。

音田 何人かまとめて受けたいので、あとでよろしいですか。手を上げるのが早かったのは、竹中大臣への思いが出ていたわけですね。それではプリントの。

進行 白い封筒をお持ちの方、マイクをお持ちください。それでは、お住まいとお名前と、もし大臣等のご指名がございましたらご一緒をお願いします。

会場発言者 竹中大臣をお願いします。

進行 お住まいと、お名前を。

会場発言者 ここから歩いて5分位のところにいるヨシダといいます。大臣、「骨太の改革」の中で、一つだけ提案があるのです。消費が落ち込んでいる、その喚起対策として新しいビジネス、これは失業者のセーフティネットとも関連しますが、新しいビジネスを創ろうということ。そのビジネスのサービスとか製品によって、消費が増えるのではないかということ。それと、土地の流動性を高めていこうという二つくらいしか消費喚起対策はないのではと感ずるのですが、それについてご意見ををお願いします。それからアメリカでは、株を一般の方が買う比率は、日本などに比べると圧倒的に高いです。日本は定額貯金や定期預金にシフトしていますが、1,300兆、1,400兆の預貯金をもっと株投資へシフトさせていくべきではないかと思えます。これはやはり消費喚起になるのでしょうか。最後に提案があります。

進行 時間が来ておりますので早くどうぞ。

会場発言者 私は今年定年退職しましたが、衣、食、住、何も買うものはありません。ご飯と味噌汁、小魚があれば食はいいですし、着る物もこんな格好です。家のローンも支払い終わりましたし、子どもの教育費もかかりません。こんな状況の60代の者が1,300~1,400兆のうち4割か6割の預貯金、金融資産を持っているといわれています。そういう連中から金を引き出すための方法として、増税、インフレ政策が考えられますが、その二つは大問題だろうと思います。預貯金や金融資産を持っている60歳以上の人間にお金を使わせる方策として、10万、50万単位でその辺の駅でも郵便局でもITを駆使して、コンビニでも簡単に株が買えるようなシステムを作ったらいかがでしょうか。

音田 経済財政改革についてご意見のある方、もうお一人だけどうぞ。

会場発言者 奈良市から参りましたナガイと申します。今の問題に触れた提案を致します。竹中大臣に提案があります。私どもは遺産相続の生前預託を提案致します。例えばある人が1,000万の生前預託をして死亡したとき、利息分は相続税に充てるというものです。例えば1,000万の利息として貯まっていれば、10万人の人で1兆円の金が期待できます。現在のゼロ金利政策よりも余程いいと思います。生前預託制度により、将来の相続税を前取りし、その代わり相続税軽減措置をとるわけです。これにより国債を発行することなく、必要な政策を実施する資金になると思われます。もう一つ疑問点があるのですが、これについては時間の関係で控えておきます。

音田 今竹中大臣に質問、提案が集中したのですが、代表してお願い致します。

竹中 各大臣、副大臣、それぞれお考えがあると思いますが、発言させていただきます。上田さん、吉田さん、永井さん、ものすごくよく勉強されていて、刺激的な質問です。はっきりいってすごく難しい質問です。上田さんの、アメリカとの関連ですが、私は大臣になって、本当に日本の雑誌やホームページはひどいと感じました。「あることないこと」どころか「ないことないこと」が書いてあって、そのうち一つや二つは「名誉毀損で訴えてやるぞ」と思っているのがたくさんあります。

私は「規制を撤廃しろ」などとは一度もいっていません。規制を緩和しなければならないものはたくさんありますが、新たに規制しなければならないものも間違いなくあって、実際にアメリカもそうやってきたわけです。アメリカは80年代にかなり思い切って規制を緩和しましたが、同時に事後的なチェックもものすごく厳重にしているのです。例えば何か金融取引を行って違反した場合の事後的なチェック、罰則、これも政府の事後規制なのですが、これはむしろ従来以上に高まっており、そんなに簡単に「すべてを市場に任せたらうまく行く」などということは、まともな経済学者はだれも考えていませんし、私はそんなことをいった覚えは全くありません。

ただ重要なことは、日本にはやらなくてもいい規制があまりにたくさんあるということです。これは否定できないと思います。私は比較的長くアメリカに住んでいましたが、アメリカ経済のそういった問題点については、一般的に批判される方以上に私自身は感じているつもりです。アメリカに長く住んでいましたから、それは当然なのです。そんなに完璧なものではありません。IT等々に関しても、アメリカの株価は今、調整局面を迎えています。あるIT株は確かに10分の1、平均して15%くらいですから6分の1か7分の1になっています。

しかしどうですか。それでもニューヨークダウの平均株価はまだ1万を超えていて、8年前の4倍か5倍です。それだけ高い水準にあるわけです。一時高すぎたものは調整する、経済ですから必ず調整が起こります。高くなったものは低くなり、低くなったものは高くなって、循環を繰り返しながら上っていくわけですが、市場活力を取り入れたアメリカにおいては、長期の上りのトレンドは他の経済よりも圧倒的に高いという事実は、私たちは認めるべきだと思います。

それを日本に置き換えて考えてみても同じことが求められています。あまりに規制が多いのです。その規制はどんどん緩和しなければなりません、日本は一方ですごく緩いところもあるのです。例えば金融取引で、悪い経済行為を行った場合の罰則などを見ても日本はものすごく甘いです。それは絶対に強化すべきなのです。銀行についても、アメリカでは銀行が株を持つことを禁じています。株は変動するので、それに銀行が影響されて社会に悪い影響を及ぼすからです。しかし日本は、株を持ってもいいことになっています。一応の規制はありますが、非常に甘い規制です。これについて私はもっと取り締まって、銀行が株を持つことをかなり制限していくべきだと思います。現実にはそういう政策を政府は取りつつあります。

ですから、決して単純に撤廃で、アメリカは全く規制がなく、あんなふうになったら大変だとか、そんな単純な考え方は、議論を歪めていると思います。本当の意味での健全な生産議論を、恣意的にゆがめている人たちがいるのではないかと思うほど、ひどい議論が世の中には横行しています。その意味ではバランスが問題だということをごひ申し上げたいと思います。

吉田さんの消費に関する問題。これは非常に重要です。消費が増えない限り日本の経済は長期的に安定しないと思います。ではどうすれば消費が増えるでしょうか。「これをやれば消費が増える」という、そんな簡単な道はないと思います。私は信じています。消費者は非常に賢いのです。どういう状況になったらお金を使いますか。将来ちゃんと稼いでいけて、経済が安定して行って、自分の生活も安定すると思えば、絶対に使うのです。しかし、将来に何か不安があると消費はしないのです。その不安があるのに政府が姑息な手段を取っても、消費者は賢いですから、財布の紐など緩めないのです。その意味ではやはり経済をきちんとすること、将来の財政赤字について責任を持つこと、年金のシステムをきちんとすること、教育もきちんとやって、子どもたちが安心して住める国の基盤を作っていくこと、それこそが結局のところ、私たちが将来に対する自信を回復して、その中で消費を回復していける唯一最大の方法だと思います。だからこそ消費に関して特別に書いているわけではありません。

ただ、それでも若干呼応する問題はあります。一つは住宅です。住宅のスペースが広まれば、もっともっと買うものが増えるでしょう。先ほど「私はもう買うものがない」とおっしゃいました。少し考えてください。このようにいえるのは世界中で恐らく日本人だけです。世界のどこにもそんなことをいう人はいないと思います。これも発想を変えて、「何でも持っていますか」「ヨットを持っていますか」「ヘリコプターを持っていますか」「タキシード持っていますか」「奥さんはイブニングドレスを持っていますか」と聞かれたら、どうでしょう。夢みたいな話だと思われかもしれませんが、住宅を2倍にしてみてもレベルの高い社会に行けばまた新しいものが開けてくると思います。このようにスペース、住宅は消費喚起のための一つのきっかけになると思っています。

1,400兆円の金融資産を持っているのに、その6割近くがほとんどゼロ金利の預金にっていて、株には1割弱しか行っていないのは、これは世界から見ると異常な状況です。では日本人はそんなに臆病なのでしょうか。株のリスクを嫌う非常に特殊な民族なのでしょうか。そうは絶対思いません。そんなにリスクを恐れるなら、有馬記念や日本ダービーの馬券があんなに売れないでしょう。和牛商法で引っかかる人があんなに

出てこないでしょう。これはやはり、市場の整備が遅れているからです。それに加えて90年代の異常な金融危機の恐れが体験的に残っていることもあります。

今度「401k」が国会を通過しました。私たちの年金を私たちの責任において、株等々の資産で運用していきけるこの仕組みは、私は中期的には非常に大きく日本の市場を活性化すると期待しています。しかし同時に、やはり株で得たキャピタル・ゲインに対する課税の問題、損失を繰り延べる、損益を通算する仕組みは作っていかねばなりません。そのための税制改革は、必要で、小泉内閣の中で、秋に向けてどうするか、かなり真剣に議論されていることを、ぜひ申し上げておきたいと思います。

また、日本の高齢者はお金を持っているとはそのとおりだと思います。私はお金を必要としている若い世代に自由に移転すること、一種の生前贈与のようなものですが、これは大幅に緩和するべきだと思います。今の贈与税の制度は非常におかしいです。例えばみなさんが別居している家族に仕送りすると、これは贈与となるのです。東京かどこかでひとり暮らしをしているお子さんに親は仕送りしていますが、普通の金額を送っていたら、これには税金がかかるのです。それだけ贈与税の仕組みは非常に古いまま据え置かれているのです。

やはり自由に子どもたちにお金を使ってもらおう仕組みが、私は必要だと思います。その意味で日本は非常に異常な所得構造になっているのです。年功序列、終身雇用賃金ですとやってきて、最近リタイアできた方は、そういう意味では私は非常にラッキーな世代だと思います。この方たちはうわあっと上ってきて、退職金もいただいています。若い世代にはそういうルールはなくなるといわれていて、若い世代は戸惑っています。その意味で、世代間の所得の移転がもっとスムーズに行われるような仕組みが必要だと思います。最後の永井さんの生前預託、相続税の前取りの提案は非常に面白いですが、相続税を前払いしてしまったあとで「事業が破産した。返してくれ」というのも大変です。しかし提案としては大変面白いと思います。私はむしろ生前贈与みたいなもので次の世代の人たちに引き継いでいく、ないしはお金を持っているお年寄りが、いろいろな社会福祉施設などに自由に寄付できるように、寄付税制を緩和する仕組みを取り入れていくことが、みなさんの提案にお答えできる一つの方策ではないかと思っています。

音田 ありがとうございます。経済財政についてはまだまだご質問があると思いますが、次に移ります。財政構造改革で不良債権処理の次に関心が高かったのは、特殊法人の見直しについてで、16%挙げられました。特殊法人の見直し、あるいは国と地方の役割の見直しといった行政の構造改革についてご意見、ご質問のある方、ございませんか。

進行 恐れ入ります。まずお住まいとお名前をお願いします。

会場発言者 奈良市学園前のコウといいます。小泉内閣の構造改革のうち、優先順位として一番目にあげたのが特殊法人の見直しについてです。日本は経済復興のために自由に何でもさせていました。いわゆる規制は、公務員に都合のいいためであって、竹中大臣もいわれたように企業の規制というものは問題になっていない。最近問題になっているのは全部これについてのものです。町に出てもこの改革をやれば雇用不安や不景気になるといわれますが、私はそういうことは絶対にないと思います。ただ、優先順位を誤ればそうなると思います。したがって、国と地方の特殊法人の見直しを第一番目にやるべきです。この特殊法人は国だけではありません。地方にもたくさんあります。いわば、天下りです。こういう方々は、われわれ民間を退職した者に比べて非常に優遇されていると思います。この部分にメスを入れて、これによって削減された何兆円かのお金をまず借金の返済に充てていただきたいと思います。不良債権の処理にしても銀行の合理化をもっと進めるべきです。それによってなし崩し的に不良債権の処理をする。そういう行政の構造改革をすることによって浮いたお金を中小企業に回すことです。

教育の話が出てきますが、これも何でも金儲けになると倫理が崩れてしまうと思います。特にテレビの影響が子どもにとっては大だだと思います。いじめの問題も、個人的には「タケシの番組」から始まったと思っています。「タケシの番組」はいじめで優越感を植えつけたと思います。ですから、テレビに出られる方の発言、番組ももっと倫理観を持っていただきたいと思います。教育に技術はないと思います。私は学校はあまり出ていませんが、我々の年になったらなかなか頭に入りません。やはり二十歳まででできるのは若さの特典だと思います。私は60歳を過ぎてパソコンを始めました。やろうと思えばできるのですが、若ければもっといろいろなことができると思います。教育なんてむずかしいことではないと思います。以上です。

音田 ありがとうございます。ではどうぞ。

進行 チェックのシャツの方、起立していただいてよろしいか。まずお住まいとお名前をどうぞ。

会場発言者 奈良市から来ましたナガトと申します。地方分権についてお伺いします。現在市町村の数は3,000余りあるといわれていますが、このままでは絶対に地方分権はできません。地方にしっかりと行政官がいるかといえば、はなはだ不安です。県庁の所在地くらいは大丈夫でしょうが、1万人以下の町村に

なると、ほとんど不可能に近いと思います。戦後大きな市町村合併がありました。やはり国は思い切った方法で合併を進めて400～500くらいにしなければ、地方分権は成り立たないと思います。地方分権が成立すれば行政経費の2兆円や3兆円はすぐに浮いてくる。したがって国は強力で進めていただきたいと思います。以上です。

音田 ありがとうございます。どうぞ。

進行 ブルーのシャツの方、通路よりをお願いします。まずお住まいとお名前から、ポイントを絞って短くをお願いします。

会場発言者 橿原市のカネモトといいます。特殊法人改革について伺います。先日、小泉総理が石油公団の廃止について話されていましたが、いつもは「総論賛成各論反対」でいわれるのに、このときはなぜ「各論」で話をされるのでしょうか。総論でやればいいのかと思います。「特殊法人はいつまでにやる」と。

「いつまでに公団をなくす」というビジョンが一切なくて、作るだけであとのことは何も決めていません。評価がないのです。例えば道路公団が道路を作って、この道路がどれだけ有効に利用されているか、あるいはムダになっているといった評価がされていません。石原さんですか、大臣があの中は全然わからないといわれますが、大臣がわからないものを他の人はもっとわからないではないですか。各公団がどういう事業を行って、その結果どうだったか、という評価を開示するシステムを作ればいいのかと思います。以上です。

音田 3人のご発言に対してどなたか代表してお答え願います。中谷長官、お願いします。

中谷 特殊法人については石原担当大臣が行っています。総理は、国会でも発言しましたが、民間でできるものは民間にやらせる、またゼロベースから見直しをして国から財政支出の大胆な縮減を目指すという方針でやっています。この方針で、石原大臣のもと勇気をもって改革を進めていきますので、この進捗についても今後見守っていただきたいと思っています。

地方分権については、確かに3,300ある自治体の運営は国の税収の予想を見ますと現状レベルでずっと続けていくことはできず、毎年10兆円の借入れをしていますから地方財政も厳しくなっています。地方自治体の合併につきましては、私は避けて通れない問題だと思います。交通も便利になったし、通信技術も発達しておりまして、今までのようにすべての自治体の役所の機能が本当に必要かどうか検討し、不要なものについては大いに合理化して、自治体同士で話し合いをして市町村合併を推進していく方向でいかなければいけないと思います。

会場発言者 市町村合併に反対しているのは議員さんだと思います。住民はそれに対してあまり反対はないはず。ですから、これは法律でも決めて強力で進めない限り実現しないと思います。戦後相当合併が進んで市町村ができましたね。その時代のことはよくわかりませんが、「合理化を進める」というだけでは恐らく進まないです。これが進まない限り、地方分権など絶対にできないのです。法律を作るくらいの気持ちが必要だと思っています。

音田 では竹中大臣、どうぞ。

竹中 「合併が必要かどうか」と聞くと、みなさん「必要だ」というのです。しかし実際に進まないのは、ご指摘されたように議員のポストが減るから。これは基本的な問題だと思います。しかし、それを法律でやるのがいいのか、これこそまさに中央集権で、中央が「あなたとあなたと一緒にいなさい」というのがあるのかという問題があります。私はその意味では、みなさんに決めていただくことがベストだと思います。そして、「合併をしないと損になりますよ」というシステムを作るのが大事です。そういうことで、おっしゃっていることは、そこで、地方交付税の仕組みの中にそういうことを入れていこうということについて、今、真剣に議論しているところです。そういう仕組みは、私は作れると思います。今は小さなところほど「小さいから大変でしょう」ということで地方交付税によって優遇される仕組みがあって、むしろ逆になっているわけで、それを考えることは十分考えられます。同時に、ぜひお願いしたいのは、合併することを公約に掲げている市長さんを選ぶことです。それはみなさんにとって大事なことだと思います。

音田 ありがとうございます。まだご意見がたくさんあると思いますが、次に社会の構造改革に移って参りたいと思います。教育改革その他もろもろについてあとお二人の方にご発言いただきたいと思っています。

中谷 (会場からマイクなしで有事立法に反対する発言に対して) それでは有事法定について、わかりやすく説明します。これは緊急事態が起きたときに国民の皆様と国を守る組織である自衛隊をはじめ、すべての国民の生命財産を守る組織がきちんと動けるようにするためには、きちんと法律で制定して整備しておかないと、いざというときに国民を守れないというための法律です。全世界どこへ行っても緊急のための備えは

すべての国でやっています。国民の安心のためにもその法律はきちんと整備しておかなければなりません。その点についてはご理解してください。

音田 会場発言者からも拍手がありました。放送している関係上マイクを使ったご発言でなければ放送にのりません。コーディネーターの指名のあとご発言をお願いします。今日ではできるだけ幅広い分野のご質問、ご意見をお受けしたいので、一応そのご発言は聞いていただけたいと思いますので、あとは個人的にメールなどで送っていただくことはできないでしょうか。申し訳ないのですが。

進行 ではご発言希望ということで、手を挙げられた方の中からお願いしたいと思います。起立願えますか。

音田 今立ち上がった一番後ろの、ちょっとご年配の方。

進行 グレーのスーツの方ですね。ではお住まいとお名前をどうぞ。

会場発言者 吉野で木材関係をやっておりますマツモトと申します。林業については、山のことについては丸さんがお話してくださいましたが、それに関連してお話しさせていただきたいと思います。

大量生産、大量消費の時代はもう過ぎました。21世紀は循環型社会でなければならないということで住宅も70年から90年もつ家でなければならないと考えています。今、建てられている家の寿命は平均して25年だそうです。それではいけないということで昨年10月に「品確法」を初めとした法律が出来上がりました。私は、素案の段階のときに建設省の方と1時間ほどお話しして、「すばらしい法律だ」と感心しました。木材に関しては「3・2・1」とランク付けがされ、ランク3ではヒノキの柱はヒノキの4寸角を使わなければならない、ランク2では杉なら4寸角使わなければならない、ランク1はその他の材料でだめと、そういう規定がなされていました。ランク1とされた柱は外材のホワイトウッドという北欧から輸入される木でした。私どもは木材のプロとして「ホワイトウッドは建築材としては適さない。草だ」と認識しています。法律の素案でもそのように決められていました。ところがその後出来上がった法律を見ると、そのような扱いにはなっていませんでした。大手輸入業者や住宅メーカーの反論があり、恐らく議員さんや族議員からの圧力があつたのだらうと聞くと、「確かに先生方と学者からいろいろ圧力がかかっている」とのことでした。やはりそのとおりになった。現在使われている年間500万本の柱のうち300万本がホワイトウッドで占められています。そんな家は25年以上はもちません。それが35年ローンだけが先走りして大手の宣伝によって建てられています。恐らくそういう家はここ5、6年で250万戸くらい建てられています。この家を建てた人は25年も経てばローンだけが残って大パニックになるでしょう。それは検査が緩いからです。先ほども農林水産大臣をお会いしてお話しようと思ったが時間がないとのことなので、大臣室に行くことと約束してきました。以上です。

音田 ではその点については農林水産大臣からゆっくり答えていただいた方がいいでしょうか。どなたかお答えいただけますか。丸さんからお願いします。

丸 木材の消費量の80%は木造住宅です。木造住宅を求められているエンドユーザーの建物は80%くらいの希望をもっておられます。どうも林野庁は「山を見て木を見ていない」「森を見て木を見ていない」ようです。木材の需要拡大があつてこそ山が育つのだという認識に立っていただきたいと思います。そのために地域で生産された木は地域で使うことがエコ住宅ということで、これは今後大変重要な要素になってくると思います。大手住宅メーカーはほとんど外材を使っています。町の工務店は国産材を使っています。町の工務店に愛の手を差し伸べることによって地域が活性化し、それが木材需要の拡大につながるのです。この仕組みをぜひとも考えていただきたいと思います。

音田 それはご要望ということでいいですか。

丸 はい。先ほどから「地域の時代」とか「発想の転換」、いろいろいわれていますが、改革するならそういうことです。山もとから眺めるのではなくて、消費者がどんな木を使うのかという発想に、我々木材業界も再構築、構造改革しなければいけないと思います。国産材をいかに使っていくかという仕組みのために、奈良県では吉野の杉を使った産直住宅、岐阜県では東濃ヒノキを使った産直住宅、和歌山県は紀州材を使った産直住宅を普及させようとして一生懸命やっていますが、やはり大手住宅メーカーに負けて苦戦しているのです。この辺の育て方を考えていただきたいと思います。

音田 今、県民代表の方にご発言いただきましたが、他のみなさんも欲求不満ではないでしょうか。会場からいろいろなご意見、ご質問を聞いてのご感想も含めて簡単にお願ひできますか。教育に関する意見があまり出ませんでした。藤田さん、いかがですか。

藤田 奈良県の場合、公教育と私立学校教育がよい意味で切磋琢磨しており、全国的にみても奈良県の教育は非常に高い水準にあると自負しています。しかし、先ほど閣僚の方々からお話があったように、現実問題として今までないような教育的な問題が現れてきました。我々教職員もそういう意味で新たな教育問題に対する対処の仕方については常々考えてやってくるわけですが、基本的に家庭と学校が密接に連携した中でやっていかないと、これからの子どもの教育はうまく行かないと思います。そういう意味で、国もポイントのいいものを我々に与えてほしいと思います。

音田 （会場発言者からの不規則発言に対して）ご意見ご質問は手を挙げてから発言願います。山藤さんはいかがですか。

山藤 教育についての話があまり出ていませんが、どなたか総合学習について触れられました。すでにほとんどの学校で実施されているそうですが、来年から正式に始まるそうです。私の理解が悪いかもしれませんが、その前には「ゆとりの教育」がいわれていました。また、英会話教育についてもよく取り上げられます。ここで一ついいたいことは、英会話教育は国際理解教育ではない、一つの手段に過ぎないということです。このことをこれからの教育の上で考えていただきたいと思います。まず自分の国、自分のことがわからなければ国際理解は始まりません。それだけ申し上げたいと思います。

音田 では尾川さん。ご意見、ご感想ありましたらどうぞ。

尾川 みなさん、それぞれ本当に実の詰まった話をなさっています。私は21世紀は教育と環境が大事になると思っています。21世紀を担う子どもたちがどのように育っていくか、その責任は私たち大人にあるわけです。家庭教育の上に学校教育が成り立ち、そして社会の企業の中での教育になると思いますが、学校の先生方も現場で大変ご苦労されていることは事実としてひしひしと感じます。私らができることは家庭教育と、学校を卒業してからの社会教育だと思います。「臭いものに蓋」式で、今までの日本人が勇気をもってやってきたことができなくなって、通り過ぎてしまうような国民性が日本人には出てきているのではないかと思います。

面と向かってやることは大変だと思いますが、今回の小泉内閣に対する88%という高支持率は小泉総理だけに対してだけではなく、「変えてもらいたい」という切実な願いもこもった88%だと思います。そういう意味で私は、大臣、副大臣にお願いするばかりではなくて、私たち国民一人ひとりが、それぞれの分野で自分のできることをやっていくことが21世紀ではないかという気がします。

音田 ありがとうございます。上本さん、お願いします。

上本 教育と国を学校に例えてみようと思います。学校には整理委員や安全委員がいて、その上に学級委員がいて、そのすべてをまとめるのが生徒会であり生徒会長です。私は生徒会長が小泉さんだと思います。学級委員や生徒会長は、国民つまりクラスみんなの意見をまとめて、よりよいようにして、そして、それは多数決で決まるわけですから反対する方もいるので、そういう人たちの意見もすべてまとめて、よりよいものにするべきだと思います。学校でも多数決ですので、自分が支持していない人が選出されても、その人を盛りたて、応援していくことがルールだと思うのです。それは小学生でも中学生でもわかっていることですが、国会の方はそれについてどう考えているのでしょうか。

テレビを見ていても田中真紀子さんがもめていたりけんかしたりしています。自分が選んだわけではなくても、決まったのだからよりよいように応援すべきだと思います。ヤジを飛ばす人もいますが、そういうのは高松市の成人式でヤジを飛ばして逮捕された若者と変わらないのではないのでしょうか。私たちの税金でご飯を食べているのに、そういうことを公の場でしてもいいのか、恥ずかしくないのかと思います。

音田 今の意見についてどなたかお答え願えますか。松田副大臣、いかがですか。

松田 その通りだと思います。聞いていて、正直ぐっと来ました。小学生のいう通りだという面がありますね。しかし考えてみれば、私も落選の経験もありますが、国民が選んでいるのです。ですから、本当に選挙は大事だと思いますし、真剣に選挙に参画されているばかり方だと思いますが、一步一步だと思います。「政治家がもっとしっかりしろ」ということは、私自身もそう感じます。ごめんなさいね。

竹中 この中で唯一私は国会議員ではありませんので、気楽な立場で話させていただきます。大臣になって国会答弁をして一番感じたことは「国会って、こんなにヤジがあるのか」ということでした。テレビ等で見ていてヤジがあるのはわかっていますが、やはり対話のマナーはすごく大事だと思います。マナーに基づかないと対話にならないわけで、「残念だけど日本の国会はそれとは違う」という印象を持っています。そこはみなさん、ぜひ国会中継をご覧になって、だれがヤジっているかを見てそういう人は選ばないことです。上本さんのご指摘に対して申し上げたいことがあります。上本さんは国会を生徒会、例えられましたが、国会と生徒会とは違うことが一つだけあります。それは、1億2,700万人を対象にみんなの意見を聞いて、み

んなの意見を取りまとめることは現実にはできないということです。40人のクラスならそれは可能でしょう。そしてもう一つ、1億2,700万人はそれぞれに仕事をもっています。何をいいたいのかというと、私たちは「民主主義」とよくいいますが、これは実は「指導者民主主義」といわれるものです。政治のリーダーが「こうしようではないか」とはっきりものをいう。それに対して「そうだ」というか「それは違う」と思うか。そのリーダーがちゃんといることが重要であって、リーダーのいうことを国民が聞いて常に賛成か反対か判断することができて初めて民主主義が成り立つのです。その意味では、今回、小泉総理というはっきりものをいうリーダーがいて、幸いにしてテレビ中継の視聴率も高くみんなが見ています。もちろん賛成、反対をはっきりいえばいいし、選挙でも「この候補者はどういうメッセージを送っているか」をちゃんと見ていただくことが必要だと思います。

今度の選挙ではその「指導者民主主義」が初めて機能するのではないかという予感が、私はあるのです。そのことをぜひ申し上げておきたいと思います。

音田 ありがとうございます。では朝廣さん、ご発言いただけますか。

朝廣 教育についていえば、地域の子どもは地域で作るべきだろうと思います。だれとだれが悪いとか、どこに責任があるということではなくて、そういう形にとらわれずに私たち市民が、自分が隣の子どもの面倒を見ようという気持ちになることが、根本的に大事なことはないかと思っています。

教育ではありません。例えばまちづくりについても江戸時代のように自分たちが自分たちの町の掃除をしようとか運営していこうという気持ちになることが、これからは大事なのではないかと感じました。私たちはそういう意識を持つべきなのですが、先ほど竹中大臣がいわれた、ちゃんとしたリーダーがきちんと方向性や指示を示してくださることが非常に望まれると思います。

今回「タウンミーティングに出ることになった」と母にいいましたら、「すごいね」といいながらその後いきなり政治に対する意見を語り出したのです。一専業主婦であった母がどうしたのだろうと思ったのですが、「今とても政治が面白い」と非常に関心をもっているようです。小泉内閣になってこのような意見交換の場を与えていただいて、専業主婦の母が政治に関心を持つようになり、すごく開かれた政治になってきたことを実感しました。ぜひこれからもこういった場をどんどんもてるようにお願いしたいと思います。

音田 今のお話でまとめのようになってしまいましたが、今日最低10人の方のご意見を伺いたいと思ってやって参りました。あとお一人だけ、どうしてもいっておかなければ寝られないという方、どうぞ。声を出して挙げられた、ブルーの服の女性。

進行 わかりました。たくさんアナライザーを手に持っておられる方ですね。恐れ入ります。お住まいとお名前のあと、ポイントを絞ってご発言をお願いします。

会場発言者 大和高田市から参りましたハシモトです。今、諸大臣が「立派なリーダーを選出すること」といわれました。まさにそのとおりだと思いますが、比例代表制度について申し上げます。地元で立候補して落選された方が、比例代表で当選されることがあります。そういう場合は、的確な人を選出するというところに反しているのではないのでしょうか。地元でこの人格だめだということで却下されている人が国レベルでは、その人のことが何もわからないのに当選するのは、しっかりしたリーダーを選出することとはかけ離れた発想だと思います。

そして、国会議員の数があまりにも多すぎると思います。これからは「痛み」を伴う改革をされるということで、国民の課題とされていますが、公務員とか国会議員の中には確かに活躍されている方も多々おられます。けれどヤジしか飛ばさなくて必要ないのではないかとと思われる国会議員も多数おられます。国会議員の数の是正は今後、必要なことだと思っています。ムダをなくすならばそういうことから始めなければムダがなくなるのではないのでしょうか。以上です。

音田 ご意見、ご要望ということでよろしいですね。あとのまとめのところで今の意見に対するご意見をいっていただければと思います。まだまだお話を伺いたいのですが、時間がなくなってきました。直接内閣の方でもご意見を受けておりますし、メールはちょっとという方にはファックスや手紙でも結構ですから、どんどんご意見を寄せていただきたいと思います。それではあとお一人、10秒でお願いします。もうひとりの方も10秒でお願いします。

会場発言者 先ほど教育の話が出ましたが、みなさんにどうしても教えていただきたいことがあります。一昨年、昨年と年少者の犯罪が多発しました。そして今年に入ってから20代の両親が幼児を虐待する事件が多発しています。その要因はみなさん何だと思われますか。私は三つあると考えています。まず、国会議員の「ザル法」です。家庭で親がいくらしつけても、国の指導者が犯罪を犯してお金を持っていく、退職金を持っていくのを見て、だれがまともになりますか。もう一つは旧の役人です。今の社会を招いたのは旧大蔵省が金融機関の膿を完全に出し切らなかったからです。要するに、国会議員と企業の癒着です。そしてもう

一つ、報道メディアで一番公共性の高いテレビのモラル、レベルの低下です。この三つを直さなければ今の子どもには通用しないです。

音田 ありがとうございます。もうひとりいらっしゃいますので、お願いします。

進行 お住まいとお名前からお願いします

会場発言者 奈良市から来ました。奈良女の学生自治会で全学副委員長をやっていますクボタといいます。中谷防衛庁長官にどうしてもいいたいことがあります。集団的自衛権の行使は絶対に止めていただきたいということ。そして、今、行っている北方機動特別演習を直ちに中止していただきたいということです。先日福祉リハビリセンターで188発もの銃撃事件を起こしました。安全な国づくりというならば、そういうことを何とかしなければいけないのではないのでしょうか。そして集団的自衛権はアメリカと一緒に戦争をやるのはおかしいと思うのです。

音田 ありがとうございます。会場の方、お静かにしてください。今日は何でもご意見をいっていただくという趣旨の集会ですので、ご発言いただくことは自由だと思います。一応中谷長官へのご要望ということでお受けしました。そろそろ時間がなくなってきましたので、今日ご参加いただいた4人の閣僚のみなさんから今日のご感想、そして最後の方で出されたご意見に対するお答えも含めてお願いします。中谷長官からお願いします。

中谷 私への質問もありましたので、発言します。奈良は古い都で、そもそも国はどうしてできたのかということを考えさせられました。国というものはみんな力で力を合わせてルールを決めて、安心して自分たちのやりたいことができ喜びを感じるために、作るものです。そのために税金を払ったり、警察などの国を守る組織を作ったりするわけです。国を守る組織は、みなさんが安心して生活できるように、どんなことが起こっても国民を守るためにあるわけです。そのために自衛隊は、非常に危険な訓練をしています。例えば阪神大震災でも、ボランティアでみんなが助け合いましたが、それだけでは十分でなければ自衛隊や消防隊が出動して国民を救わなければなりません。ただ単に、何かが起きたらそのときだけ行くというのでは救助活動はできません。やはり日頃から訓練して備えておかなければならないわけです。その点は理解してください。

集団的自衛権については、日本は憲法の規定によって個別的自衛権だけでやってきました。集団的自衛権というのは何かというと、「自分の友達が非常に危ないときに守ってあげる」というのが定義です。日本が今の状態だけで本当にやっていけるかどうか。よその国には互いに力を合わせて地域を守り、また自国も守ろうという国もあります。まだ集団的自衛権を行使することは決めていません。国民のみなさんがこれから日本の国の安全保障をどうするかという議論を国会でやった上で決めていきます。その賛成、反対両方の意見を寄せていただき、私たちが国会の場で決めて、それに基づいて国づくりをしていきますので、ご意見を今後とも出していただきたいと思いますと思っています。

音田 ありがとうございます。竹中大臣、お願いします。

竹中 先ほど国会でのヤジの話が出ましたが、ヤジはやはりやめた方がいいと思います。国会と同じレベルに見られるからやめた方がいいと思います。

よくテレビの討論等で「何とか会の代表」「何々業界の代表」といった、日本の代表的な立場の方とお話をしていると正直いって「この国は大丈夫か」と思うことが結構あります。いっていること、わかりますよね。しかし、今日のようなタウンミーティングをすると、「本当に日本の国は大丈夫だ」と思います。今日は多くの提案が出されました。先ほどいったように、私たちは今「指導者民主主義」の世界にいます。小泉さんのようなリーダーが「こうしよう」といったことに対して部分的に「こんなことをやられては困る」と、「自分の利害にこの点は反する」ということは、いくらでもいえると思います。しかし、この国をどうしたらいいのか、このようにしたらどうだろうかという提案は、なかなか出てきていないのです。みんなそれぞれの立場を背負って、非常に厳しい国際環境の中で生きています。批判は大いにしていればいいと思いますが、その批判を踏まえてぜひ提案をしていただきたい。その意味では今日はぜひいぶんたくさんの提案が出てきました。私は、奈良のみなさんの問題意識の高さを知って、私たち自身頑張らなければいけないと思いました。

最後に、「責任を持ってください」というお話がありました。そのとおりです。私たちは責任を持ちたいと思うからタウンミーティングをやっているのです。そうでなければこんなことはやりません。実は、このタウンミーティングにしても世界新記録を作ったメールマガジンにしても、もともとは私の学生のアイデアによるものなのです。昨年、学生と自由ディスカッションをしていたときに今、欠けているものは何かを挙げさせたときに、こういうものができたのです。時代は確実に変わっているし、私は日本の若い世代はたいしたものだと思います。私たちはその若い世代にどういう日本を引き継げるかという非常に大きな責任を

もっていると思います。「教育の問題の責任は大人にある」という話を藤田さんがされました。全くそのとおりだと思います。

これまで出てこなかった問題で、問題提起させていただきたいのは、先ほどの「稼ぎと務め」の話で、「務め」はだいぶ前からやらなくなっただけで最近は「稼ぎ」も悪くなったという話をしました。こういうアンケート調査があります。「あなたはこの1年間、仕事以外の時間で自分の能力を高めるための勉強をしましたか」と大人に聞いたのです。先ほど60歳を超えた方が「自分でパソコンをやろうと思えばできるのだ」と、頼もしいお話をしてくださいました。このアンケートで、「勉強した」と答えた日本人は全体の9.2%、11人にひとりしか勉強していません。11人のうち10人は、残念ですが勉強していません。家庭の中での対話にもいろいろありますが、どういう対話が一番楽しいでしょうか。お父さんが「この本、面白かったぞ。おまえも読んでみる。その代わりにちょっとパソコンを教えてくれ」と、こういう対話ができる社会が本当に成熟した市民社会の新しいあり方ではないでしょうか。大人も勉強する。その背中を見ているから子どもは勉強するのです。今、この国をそういう形に持っていける重要なチャンスではないかと思えます。

日本の学力は著しく低下しました。あえて議論はあるかもしれませんが、いわせていただきたいことがあります。今までの日本の教育と銀行に対する行政は非常に似ていたと思います。それは「護送船団方式」であったという点です。銀行の護送船団方式は、大銀行から中小の銀行までいろいろな能力、生産性の格差がありますが、その生産性の一番低い所にあわせて、一番生産性の低い銀行が生きられるようなシステムを作っていたのです。ですから大銀行は超過利潤をもって高すぎる給料を支払い、社員に対して過剰な社宅を供給することができたのです。その結果はどうなりましたか。競争しない社会はやはりダメになるのです。教育もそれに似ていると思います。ゆとり教育には大いに批判すべき問題があると思います。つまり英語が苦手、数学が苦手、人と協調しあうことが苦手と、いろいろな人間がいます。個性があってそれぞれ違うのですが、その一番苦手な所に合わせて、だれもが困らないような授業をしていけば、全体の能力が下がるのはあたりまえです。これは護送船団方式と同じだったと私は思います。個性を伸ばすこと、子どもたちがもつ全員の潜在能力を認めて、その一つ一つをきめ細かく全人格的に育てること、それが教育だと思います。それを大人自身が一生懸命生きていく姿を示す中で、子どもたちに伝えていかなければならないのではないかと思います。

今日は景気の話や雇用の話といった細かい話にはあまり立ち入りませんが、こういう問題も含めて本当に国民全員で新しい社会のあり方を変えられる、明治維新ないしは戦後の民主改革以来の、非常に大きなチャンスを迎えているのです。私はみなさんのような頼もしい国民がいれば絶対にできると思いますし、私たちは責任をもちます。ぜひそのことを申し上げておきたいと思えます。

音田 続いて松田副大臣、お願い致します。

松田 それぞれ働き場所や居場所は違いますが、「みんなで作り上げていくのだ」というメッセージが、若い方から出されました。その通りだと思います。みんなそれぞれ一生懸命やっていると思います。また、悪いことをやっている人もいます。そういう人たちを責めるのも大事です。しかしみんなでもっといいことを目指して、力を合わせてやっていこうというメッセージを、たくさんの人から出していただきました。そう意味で、小泉内閣はそういう気持ちにこたえていけるように頑張っていくべきなのだと感じました。副大臣の立場でそのことを意識して一生懸命やろうと思えます。

「選挙区で落ちた人がまた当選するのはおかしい」「議員の数が多すぎる」というお話がありました。確かに選挙区で落ちた人が比例で当選することについては、選挙制度改革で「公職選挙法」を改正するとき小選挙区導入についてはいろいろと議論し、そういう制度にしました。今おっしゃった意見もよくわかります。大いに議論しましたが、みんなの意見は今あなたが「おかしい」とおっしゃった制度を選択したのです。しかし、もし「おかしい」という意見が多ければ変えればいいのです。この点については十分みんなで議論してください。

議員の数は我々も多いと考えています。多くの方がそう考えていると思います。したがって改正のたびに議員の数は少しずつですが減らす努力はしてきたと思います。政治家の中に悪い人が多いというご指摘も受けました。確かにそうです。悪い人がいます。しかしまた、政治を変えよう、もっといいものにしようという努力も政治家諸君は一生懸命してきたと思います。まだ足りないといわれれば、足りません。しかし今、私は正直に申し上げます。自分の選挙を通じても感じますし、後援会のみなさんも非常に協力してくださるようになり、政治にかかるお金は、政治改革の波が起こる前に比べるとものすごく減りました。政治は一步一步かもしれない、みなさんから見れば「何をやっているのだ」と思われるかもしれませんが、しかし前進していることも事実ではないかと思えます。まだ足りません。頑張りましょう。

それから私の所掌のことであまりご質問がなかったので一つだけいわせてください。今、不況の中でご苦労が多いと思います。直しましょう。大臣もおっしゃいました。みんなで知恵を出せば克服できます。しかし、日本の場合には残念ながら新規開業より廃業が圧倒的に多いのです。アメリカはいつの時代でも開業の方が圧倒的に多いのです。廃業は日本に比べてはるかに高いのですが、それよりはるかに多くの新規開業、新規事業者が出てきているのです。もっとチャレンジしようじゃないですか。もっと勇気をもって新しいことをする国民に変わっていこうじゃないですか。そういうことも小泉内閣の大きな柱です。

経済産業省が一番やりたいことは、新しい研究開発をどんどんしていただいてその成果を新規事業にするための支援です。チャレンジャー、アントレプレナー、企業経営者が中小企業の中からもっともっとたくさん出てくること、あるいは学生諸君の中からどんどん出てくることを願っています。また、そういったことが行いやすい仕組みを作り上げます。やりにくい所があればそれを直します。こういうことに全力を挙げて、竹中大臣のもと頑張っております。これも改革の大きな柱だと思います。

音田 ありがとうございます。泉副大臣、お願いします。

泉 今日はいろいろなご意見を聞かせていただきました。歴史ある、日本の最も古い地で、しかも山藤さんから「日本人の心を取り戻すべきではないか」というご発言をいただきました。国際化に絡んで「英会話は手段に過ぎない」といわれたのは、日本人はもう一度原点に立ち返るべきではないかというご提案ではなかったかと、私は思っています。

私どもは大きな岩や大木にしめ縄を張って「ここには神が宿る」として、自然との共存を小さい頃から教えられてきました。仏教を通じて命の大切さを学び殺生は忌み嫌われるものであることを教えられてきました。そしてまた儒教を通じて長幼の序を教えられて育ってきた、それが日本人だと思っています。そうした原点に帰ることは、教育のもっとも大切なことではないかと思えます。

たくさんのご意見をいただきました。一つ一つ反論したいこともあります。しかし建設的なご提案が多かったことは大変うれしく思います。国会議員が悪い、役人が悪い、テレビが悪い、何が悪いと、人のせいにする時代ではありません。自分自身で考えて行こうではありませんか。ありがとうございました。

音田 ありがとうございます。よく一般大衆の声を「声なき声」といいますが、今日は「声ある声」が聞けたと思います。大きな声も含めて、奈良の人たちの声を4人の閣僚の先生方に十分聞いていただいて、本当にありがとうございました。

今のままでは日本はだめになるという思いを、国民の大多数がもっていると思います。だからこそ小泉内閣の改革に対する国民の期待も大きいのだと思います。具体的な青写真が出てくるのはこれからでしょうが、今日会場に来ていらっしゃる方、「痛み」を分かち合うということよりも、もっとみんなの知恵なり力を貸して、本当に明日の日本、21世紀の新しい日本を作るために、私たちも力を出さなければいけないと、覚悟を新たに致しました。

今日はくしくも七夕です。これまで政治は遠くて天の川のはるかかなたの所で行われているような気がしていたのですが、今日のこの対話集會がお互いの溝を埋める第一歩になったのではないかと思います。どうかこれからもこういう機会をぜひ設けていただきたいと思えます。

進行 以上をもちまして「小泉内閣タウンミーティングイン奈良」を終了致します。ステージ上で発言くださった大臣、副大臣、発言者のみなさん、コーディネーターの音田さん、どうもありがとうございました。



[開催スケジュール](#)



[開催レポート](#)



[意見募集](#)



[ライブ中継](#)

[著作権・プライバシーポリシーについて](#)

首相官邸

内閣府

